

第2回別府市温泉マネジメント計画策定検討委員会 議事要旨

日時：令和5年9月29日（金）14:00～16:00

場所：別府市社会福祉会館 多目的大広間

1. 開会

2. 議事

- (1) 第1回での意見の整理と今後の対応
- (2) 現況調査（継続中）の内容と結果報告
- (3) 泉源の維持、管理と余剰湯量の利活用等についての協議
- (4) 計画作成に向けた方向性に関する協議

<事務局説明>

- 第1回の意見の整理と今後の対応及び現況調査の内容・結果について説明

<主な意見>

- 下流では不足しているため、余剰とは言えないのではないか。
- 過剰に出ているお湯を減らし、地下の温泉を守ることが重要であるとする。
- 余剰という言葉は余っているという誤解を与えるため見直す必要があるのではないか。
- 供給元である泉源の湯量を把握することが必要である。
- 現況調査について、時間帯や泉温もデータとして整理していただきたい。
- 調査内容の情報は全て公開してほしい。

<事務局説明>

- 泉源の維持、管理と余剰湯量の利活用等についてハード・ソフト対策案について説明
- 計画作成に向けた方向性について説明

<主な意見>

- 別府の温泉が枯渇の危機を迎えていることを認識したうえで検討するべきである。
- 各施設の貯湯槽の増強については敷地が許せば可能であるとする。
- 未活用のお湯を循環させタンクへ戻した場合、タンクを冷やしてしまう。
- 民間と行政の温泉管を繋ぐことは可能なのか。
- 別の温泉を接続することによって、泉質が変わってしまうおそれがある。
- 本管が満水の場合、未利用のお湯は本管へ戻らないのではないか。
- 温泉資源の保全とあるが、地下にある温泉資源のことなのか、浴場のお湯のことなのか整理する必要がある。
- 未利用で廃棄されているお湯はあるということは共通認識で良いと思う。
- モニタリングの取組は重要であるが、別府市全体の変化を把握するため、市有泉源だけでなく、民間まで対象を広げて継続していくべきである。
- みどり監視員のように、温泉の監視員のような取組みがあればよい。
- 民間の温泉がモニタリングに参加するメリットがあれば良いのではないか。

- 別府市が行っている「せーので測ろう！別府市全域温泉一斉調査」は地域参画の機運づくりに関わることであるため、今後も継続してほしい。
- 別府の温泉の大部分が私有であるため、湯量全体の把握が難しい。
- 民間の湯量は資産価値に関わるため公開されにくいという現状がある。
- 民間が情報を開示したくなるような仕組みがあれば良いのではないか。
- マネジメントする上で、別府市全体の収支を把握することが必要である。
- 市民が温泉に関する問題意識を持てるように参加を促す必要があるのではないか。
- 温泉で使用されている湯量が適正かどうかも踏まえて調査する必要があると考える。
- 本管から施設へ供給する際に、きめ細かく調整することはできないのか。
- タンクに貯めてから浴槽にお湯を流す仕組みの温泉が増えれば余剰湯は少なくなるのではないかと思う。
- 温泉によって管理形態が異なるため、統一していくことが必要があると考えます。
- 地下の温泉資源を守ることと、余剰湯の利活用は分けて議論を進める必要がある。
- 自噴泉は制限が無いと、地熱発電が進められ、その結果過剰にお湯が流出している。そのため、温度の高いお湯が川へ流されており、海にも影響を与えている。過剰に取り出している分を減らすことと融通して活用することに分けて議論していく必要がある。
- 地熱発電の状況や未利用のまま捨てられているお湯についても議論する必要がある。

3. 閉会

以上